

クロツラヘラサギの世界的分布と個体数

劉良力・黄文欣・蕭木吉

台湾クロツラヘラサギネットワーク

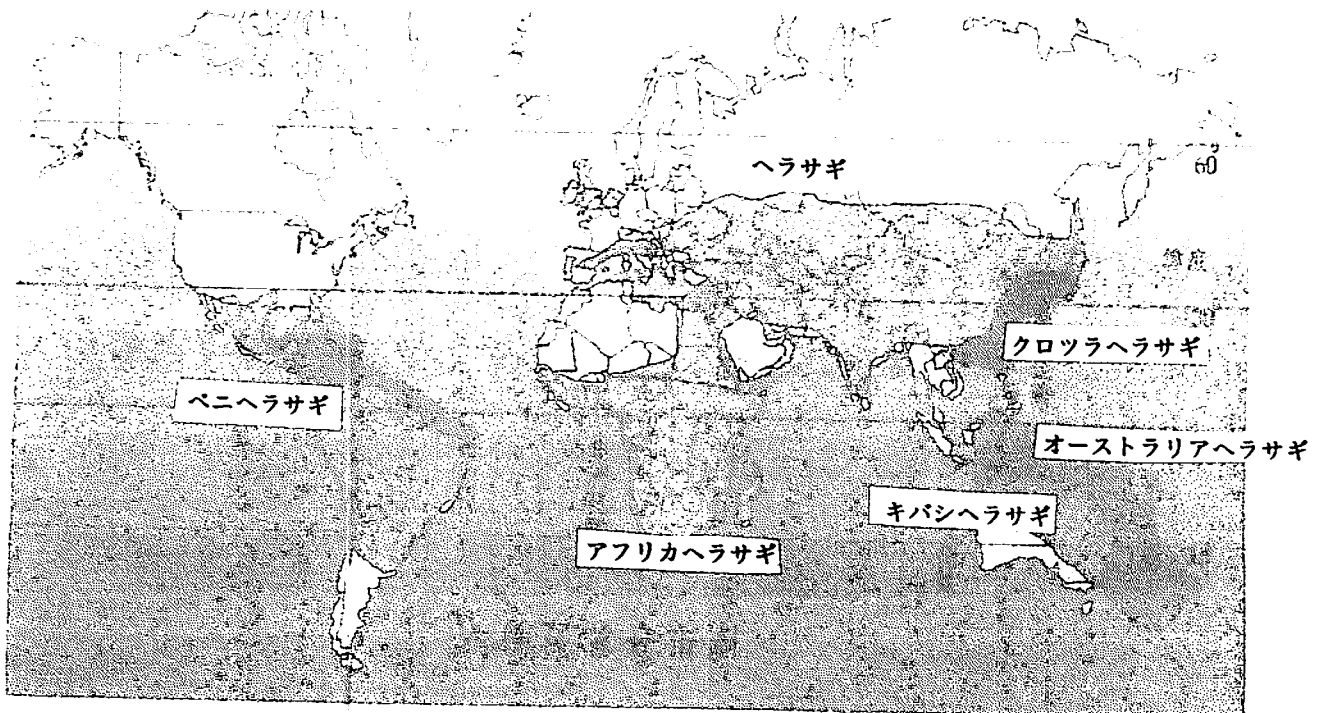
訳 福井和二

クロツラヘラサギはトキ科 (Threskiornithidae), ヘラサギ属 (Platalea) に属し, 他にヘラサギ (*P. leucordia*), オーストラリアヘラサギ (*P. regia*), アフリカヘラサギ (*P. alba*), キバシヘラサギ (*P. flavipes*) の4種がある (Monroe and Sibley 1997, Dickinson 2003). しかし, 他にベニヘラサギ属ベニヘラサギをヘラサギ属 (*Ajaia ajaia*) に合併することもある (Monroe and Sibley 1997, Dickinson 2003). これら6種は姿, 形態, 行動, 習性などがよく似ており (Hancock et al, 1992), 面白いことに, どの大陸にもみなヘラサギ属が存在していることである (Del Hoyo et al, 1992, Hancock et al, 1992)(表1, 図1).

表1 ヘラサギ属6種の和名, 英名, 学名および主要分布域

和名	英名	学名	主要分布域
ヘラサギ或は ユーラシアヘラサギ	White Spoonbill	<i>Platalea flavipes</i> and subsp	ヨーロッパ, アジア
クロツラヘラサギ	Black-faced Spoonbill	<i>Platalea mino</i>	アジア
オーストラリアヘラサギ	Royal Spoonbill	<i>Platalea regia</i>	オーストラリア, ボルネオ, ニュージーランド, ニューギニア
アフリカヘラサギ	African Spoonbill	<i>Platalea alba</i>	アフリカ
キバシヘラサギ	Yellow-billed Spoonbill	<i>Platalea flavipes</i>	オーストラリア
ベニヘラサギ	Roseate Spoonbill	<i>Ajaia ajaia</i>	アメリカ

図1 ヘラサギ属6種の分布図



世界全体のクロツラヘラサギの個体数が正式に記載されたのは、1990年 Kennerley の報告による。当時の記録には総数 288 羽で、うち台湾に 150 羽が生息 (Kennerley 1990) とある。その後、アジアの各国と地域がクロツラヘラサギの個体数が少ないことに関心が集まり、続々と関係した報告があらわれ、1994~1995 年、アジアの主要な関係国が台湾に集まり研究討論会を開き、『クロツラヘラサギ行動綱領』を作成 (中国文および英文版) した。これにはアジア諸国の他、英国の国際機関 Birdlife international, オランダの学者など多くの方が参加された歴史的な会議 (Severinghaus et al. 1995) であった。

台湾での最も早いクロツラヘラサギの記録は、英国の鳥類学者史温侯先生 (Swinhoe) の記載である。当時 1863 年、台北淡水港で 4 羽のクロツラヘラサギを採集し、標本とした (Swinhoe 1884, Ogilvie-Grant 1889)。この後、20~30 年代日本の鳥類専門家風野鉄吉が毎年台南市の安平港で 40~50 羽のクロツラヘラサギを観察した記録がある (Hachisuka and Udagawa 1951)。以後数十年記録がないまま 1985 年に至り、台南市の郭忠誠先生が七股曾文溪河口北岸でクロツラヘラサギの群れを発見 (蔡等 1998) 後、台南市の仲間たちが次々と 4 つの民間団体 (台南市野鳥学会 1992 年設立、台南県クロツラヘラサギ保護学会 1998 年設立、台南県野鳥学会 1999 年設立、台南県クロツラヘラサギ家族野鳥学会 2002 年設立) を設立した。これらはすべてクロツラヘラサギの保護を主旨としている。この 12 年来、台湾のクロツラヘラサギの個体数について数回におよぶ調査により、十分に詳細な記録がなされている。

1997 年以前、アジア各国のクロツラヘラサギの個体数調査は各自で進められ、したがって誤差を生じることもあった。しかし、1977 年、香港の Thomas Dahmer 先生が、毎年 1 月下旬歩調を合わせて一斉調査を行なうことを各国に要請して 2002 年まで続けられた (Dahmer and Felley 2000) 後、2003 年、2004 年香港観鳥会により引き継ぎ調査を継続した (Yu 2004)。これにより台湾での越冬個体数が全群の半数以上を占めることがわかった (劉 2002 表 2)。測定に正

表 2 全世界、台湾地区 (台南市、七股郷) におけるクロツラヘラサギの過去渡来数と比率

年度	'88	'93	'94	'95	'96	'97	'98	'99	'00	'01	'02	'03	'04
台湾地区						298	321	364	380	402	583	580	628
全世界比%						(55.7)	(52.4)	(62.0)	(57.1)	(49.5)	(58.7)	(54.3)	(52.1)
全台湾	150	206	286	300	320	306	327	368	396	408	588	585	632
全世界比%	(52.1)	(60.8)	(64.7)	(65.4)	(54.2)	(57.2)	(53.3)	(62.7)	(59.5)	(50.2)	(59.2)	(54.7)	(52.4)
全世界個体数	388	339	442	459	590	535	61	587	666	812	993	1069	1206
1%(ラムサール条約)	3	3	4	5	6	5	6	6	7	8	10	11	12

確を期すことは容易ではなく、したがって、2004 年 1 月、中華鳥会は台南市鳥会、クロツラヘラサギ保護学会に科学的な調査計数を実行するよう要請した (劉 2004a)。過去十数年のクロツラヘラサギの個体数変遷を図 2、図 3、図 4 に示した。これによりクロツラヘラサギの総数が増加していることがわかる。しかし、その要因を出生、死亡、分散、集合など、単純な個体数増加の現状から見いだすことは容易ではない。注目に値することは、2002 年末から 2003 年初めにかけて、台湾において 73 羽のクロツラヘラサギが、不幸にもボツリヌス菌中毒のため死亡した。この損失は非常に大きく、自然保護関係者に衝撃を与えた。この個体数減少は国連自然保護組織 (Groombridge 1993, IUCN 1997) Birdlife International (Cllar et al, 2001)、ならびに農業委員会 (COA 2002) 等国内外に関わらず、現在、クロツラヘラサギは絶滅の恐れがある水鳥として認

識された。その他、国際ラムサール条約中の規定に、その湿地中に絶滅危惧種の水鳥が1%でも生息するならば自然保護区とする資格があるとする (UNESCO 1971, 1999) が、しかし、残念ながら台湾は本条約の締結国ではない。したがって、農業委員会の“野生動物保護法”(COA 2002) について、いま一つ積極的でない。この比較的明確な法の根源に対して、各界の十数年におよぶ努力が、ここにのみって2002年11月1日、台南県政府はついに「台南県曾文溪河口北岸のクロツラヘラサギ保護区」の公告を発した(台南県政府 2002)。これはクロツラヘラサギ保護事業の新たな一里塚の建立といえる。

図2 香港における1990~2004年間のクロツラヘラサギ群の増加曲線。
(第2年度(1991)~第3年度(1992)間は資料がない)

Lner Regression; $Y=11.05X+8.5$
 $R^2=0.712, P=0.001$

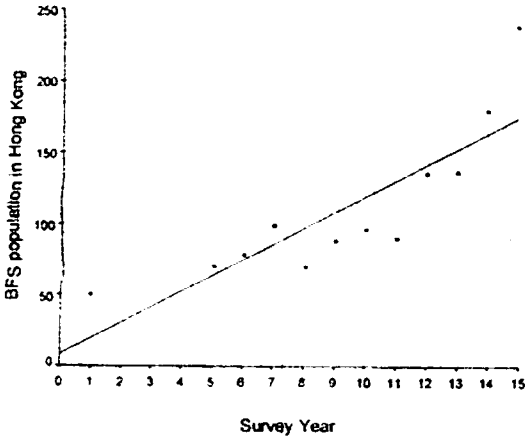


図3 台湾における1990~2004年間のクロツラヘラサギ群の増加曲線。
(第2年度(1991)~第3年度(1992)間は資料がない)

Lner Regression; $Y=35.31X+53.77, R^2=0.952$
 $P<0.001$

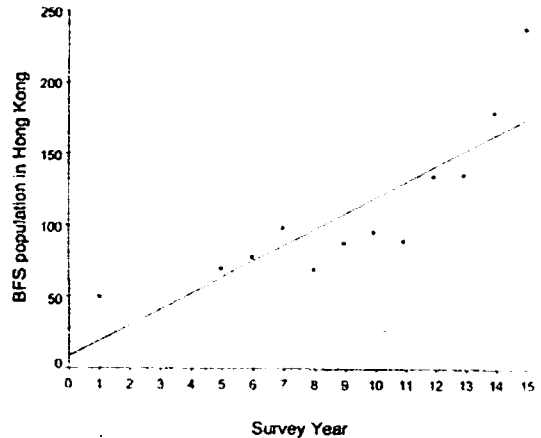


図4 世界における1990~2004年間のクロツラヘラサギ群の増加曲線
(第2年度(1991)~第3年度(1992)間は資料がない)

Lner Regression; $Y=65.87X+65.35, R^2=0.899, P<0.001$

